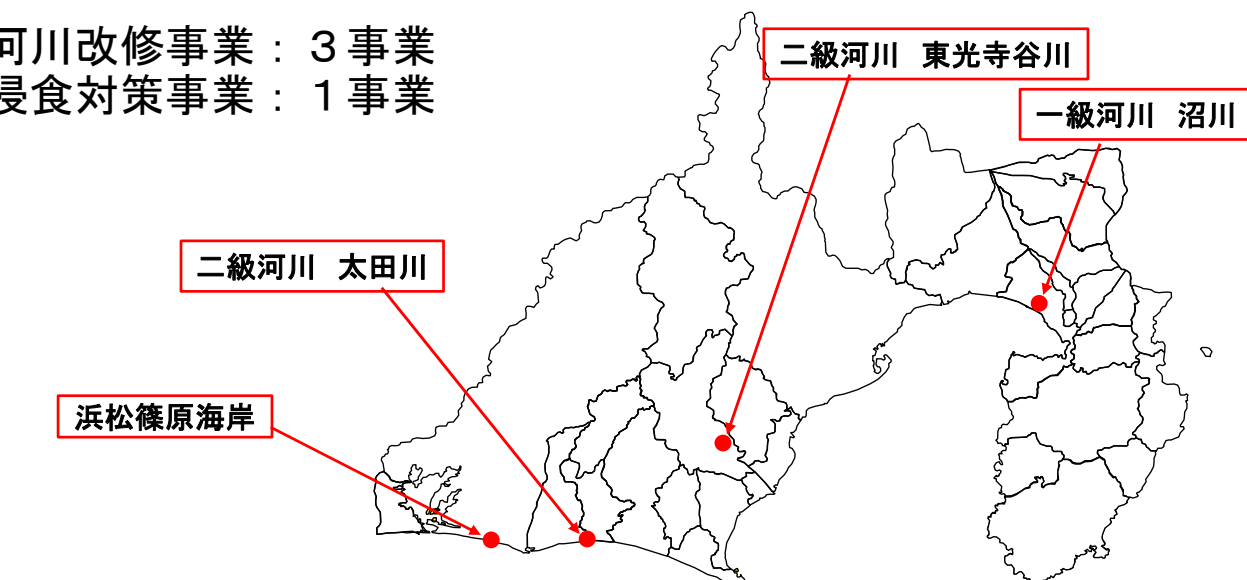


番号	7	令和 8 年度公共事業再評価調書					担当課名	河川海岸整備課																														
事業名	侵食対策事業					事業主体	静岡県																															
ふりがな	はままつしのはらかいがん					関係市町	浜松市																															
箇所名	浜松篠原海岸																																					
事業採択年度	平成 18 年度			計画期間	平成18年度 ～ 令和20年度																																	
用地着手年度	令和 年度			工事着手年度	平成 18 年度																																	
再評価理由※	前回再評価後5年経過																																					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R6年度	R7年度	R8年度見込	計																																
	6,144		2,369	0	40	2,409																																
事業概要	(1)事業目的 海岸侵食が進行しているため、防護上必要な砂浜幅を確保し、越波等により背後地の浸水被害発生を防止する。 (2)事業内容 施工延長： 4,500 m 離岸堤工： 3 基 養浜工： 158万 m3																																					
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・H28の事業休止以降の海岸侵食に伴い、防護上必要な砂浜幅が確保できないおそれがあることから、R3から養浜工を再開した。 ・防潮堤と浸食対策により背後地の住宅、事業所等の防護が求められている。 ・環境保護団体、学校等により清掃・アカウミガメ保護等の活動が行われており、地域からの砂浜保全の関心は高い。 ・また、浜松市は対象海岸を含む市沿岸域で「ビーチ・マリンスポーツの聖地」として独自ブランドを創出しており、中田島砂丘は映像ロケ地としての人気が高まっている。 ・篠原海岸の砂浜を海岸保全施設として砂浜指定したことにより、砂浜を維持する必要がある。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>2.0</td><td>6.6</td><td>11.7</td><td>5.2%</td></tr></table> ・総便益 (B) 170.7 億円 (侵食防止便益：1.28億円、浸水防護便益：169.20億円、残存価値：0.21億円) ・総費用 (C) 84.1 億円 (建設費：82.74億円、維持管理費：1.36億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・住民の精神的負担の軽減と安心感の向上 ・地域経済と社会活動の安定 (3)事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td rowspan="3">事業量</td><td>事業費</td><td>39.2%</td><td colspan="2">(2,409 百万円 / 6,144 百万円)</td></tr><tr><td>離岸堤工</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(3 基 / 3 基)</td></tr><tr><td>養浜工</td><td>62.0%</td><td colspan="2">(98 万m3 / 158 万m3)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>#DIV/0!</td><td colspan="2">(/)</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.0	6.6	11.7	5.2%	区 分		進捗率	内 訳		事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)		離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)		養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)		用地取得		#DIV/0!	(/)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																			
2.0	6.6	11.7	5.2%																																			
区 分		進捗率	内 訳																																			
事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)																																			
	離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)																																			
	養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)																																			
用地取得		#DIV/0!	(/)																																			
事業の必要性																																						
【視点2】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・養浜実施後のモニタリングとあわせ、養浜を継続実施する（計画養浜5万m3/年以上）。 ・電源開発株式会社や国と連携し、秋葉ダムや天竜川の掘削土砂を養浜材として確保しており、事業の実効性が認められる。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>2.0</td><td>6.6</td><td>11.7</td><td>5.2%</td></tr></table> ・総便益 (B) 170.7 億円 (侵食防止便益：1.28億円、浸水防護便益：169.20億円、残存価値：0.21億円) ・総費用 (C) 84.1 億円 (建設費：82.74億円、維持管理費：1.36億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・住民の精神的負担の軽減と安心感の向上 ・地域経済と社会活動の安定 (3)事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td rowspan="3">事業量</td><td>事業費</td><td>39.2%</td><td colspan="2">(2,409 百万円 / 6,144 百万円)</td></tr><tr><td>離岸堤工</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(3 基 / 3 基)</td></tr><tr><td>養浜工</td><td>62.0%</td><td colspan="2">(98 万m3 / 158 万m3)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>#DIV/0!</td><td colspan="2">(/)</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.0	6.6	11.7	5.2%	区 分		進捗率	内 訳		事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)		離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)		養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)		用地取得		#DIV/0!	(/)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																			
2.0	6.6	11.7	5.2%																																			
区 分		進捗率	内 訳																																			
事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)																																			
	離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)																																			
	養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)																																			
用地取得		#DIV/0!	(/)																																			
今後の事業の進捗の見込み																																						
【視点3】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・天竜川掘削土砂の運搬について、河川管理者と費用の分担等を協議し、コスト削減に努めていく。 ・港湾事業発生土砂や河川の掘削土砂等、養浜材として活用できる他事業による土砂を積極的活用し、コスト削減に努めていく。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>2.0</td><td>6.6</td><td>11.7</td><td>5.2%</td></tr></table> ・総便益 (B) 170.7 億円 (侵食防止便益：1.28億円、浸水防護便益：169.20億円、残存価値：0.21億円) ・総費用 (C) 84.1 億円 (建設費：82.74億円、維持管理費：1.36億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・住民の精神的負担の軽減と安心感の向上 ・地域経済と社会活動の安定 (3)事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td rowspan="3">事業量</td><td>事業費</td><td>39.2%</td><td colspan="2">(2,409 百万円 / 6,144 百万円)</td></tr><tr><td>離岸堤工</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(3 基 / 3 基)</td></tr><tr><td>養浜工</td><td>62.0%</td><td colspan="2">(98 万m3 / 158 万m3)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>#DIV/0!</td><td colspan="2">(/)</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	2.0	6.6	11.7	5.2%	区 分		進捗率	内 訳		事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)		離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)		養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)		用地取得		#DIV/0!	(/)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																			
2.0	6.6	11.7	5.2%																																			
区 分		進捗率	内 訳																																			
事業量	事業費	39.2%	(2,409 百万円 / 6,144 百万円)																																			
	離岸堤工	100.0%	(3 基 / 3 基)																																			
	養浜工	62.0%	(98 万m3 / 158 万m3)																																			
用地取得		#DIV/0!	(/)																																			
新たなコスト削減・代替案立案等の可能性																																						
対応方針 (案)	(1)対応方針 (案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は、海岸侵食に対して防護上必要な砂浜幅を確保し、越波等による背後地への浸水被害発生を防止するものであり、事業の投資効果が認められる。近年、地域住民、環境保護団体等による砂浜の保全活動や、マリンスポーツ等の利用が活性化しているなど、砂浜の保全が望まれている。また、今後の事業進捗も見込めることから事業を継続する。																																					

令和8年度 公共事業再評価

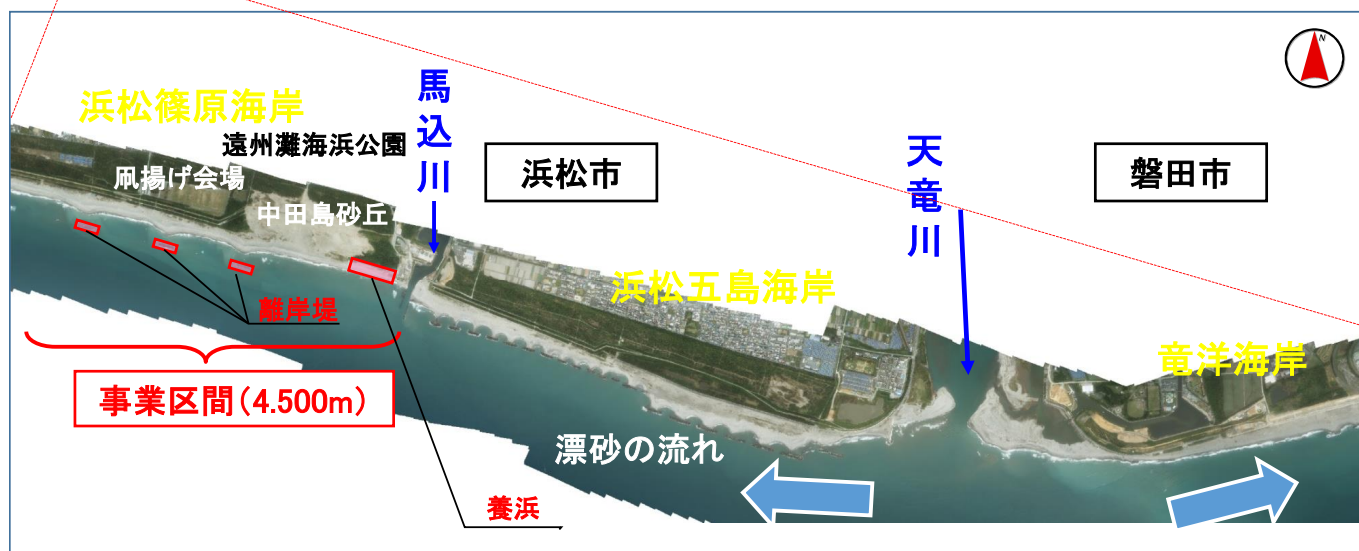
河川改修事業：3事業
浸食対策事業：1事業



番号	事業名	箇所名	代表事業
1	河川改修事業	二級河川東光寺谷川	
2	河川改修事業	二級河川太田川（下流工区）	○
3	河川改修事業	一級河川沼川	
4	浸食対策事業	浜松篠原海岸	

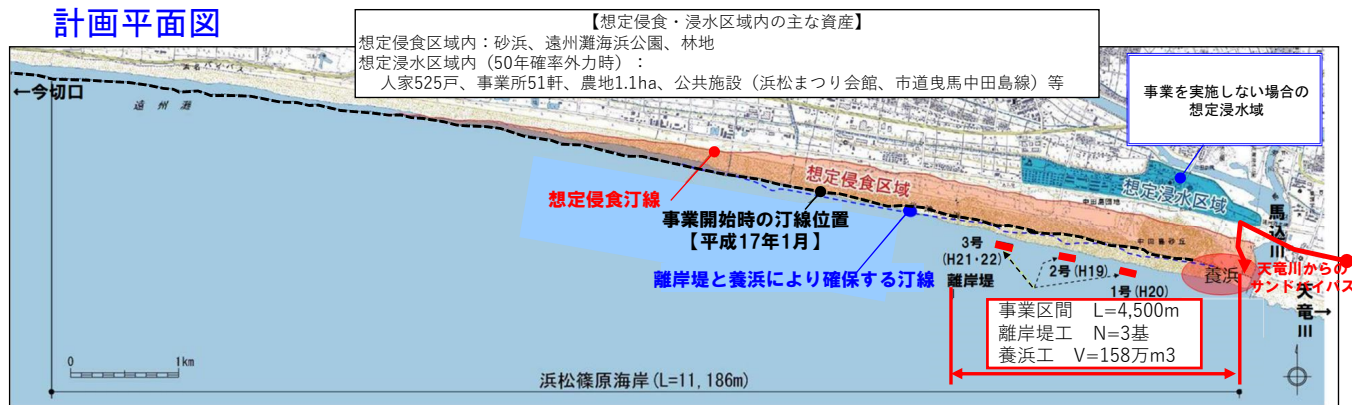
交通基盤部 河川砂防局 河川海岸整備課

1. 事業箇所位置図

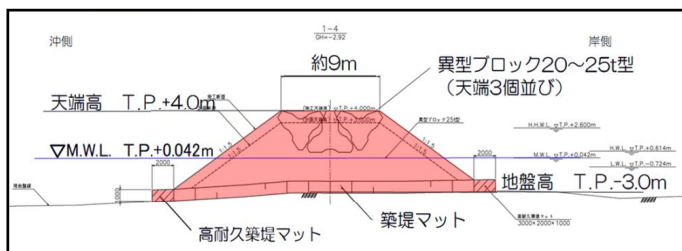


2. 事業概要（変更）

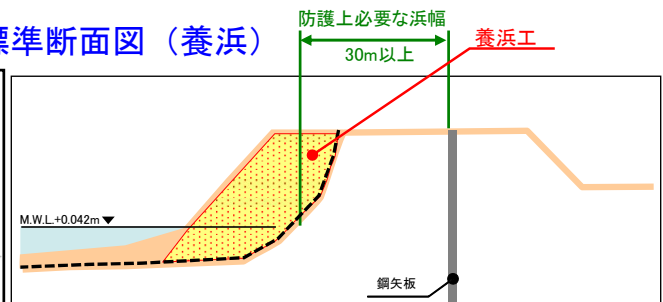
計画平面図



標準断面図（離岸堤）



標準断面図（養浜）



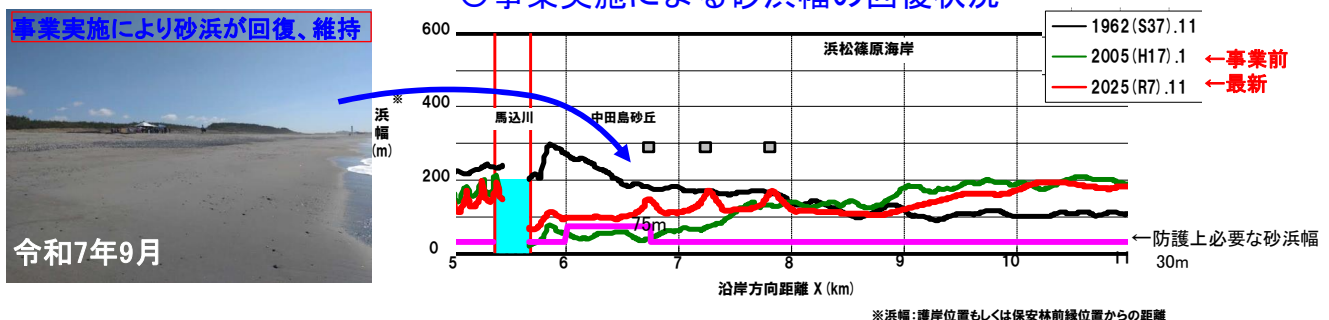
事業期間	平成18年度～令和20年度（平成27年度～令和2年度は休止） [前回：平成18年度～令和8年度]
事業費	6,144百万円（令和7年度まで実績2,369百万円） [前回：3,699百万円]

3

3. 事業の効果

- ✓事業期間中の平成21年から平成30年にかけては、50年確率波相当の波高9mを超える高波が毎年1回の頻度で観測されているものの、防護上必要な砂浜幅を確保しているため、背後地への越波・浸水被害の防止が図られた。

○事業実施による砂浜幅の回復状況



総便益(B)	170.69億円	費用便益比 (B/C)	内部収益率 (EIRR)
総費用(C)	84.10億円	2.0	5.2%

総便益(B)：侵食防止便益1.3億円 + 浸水防護便益169.2億円 + 残存価値0.21億円
 総費用(C)：事業費 82.74億円 + 維持管理費1.36億円

事業効果が発現されている

4

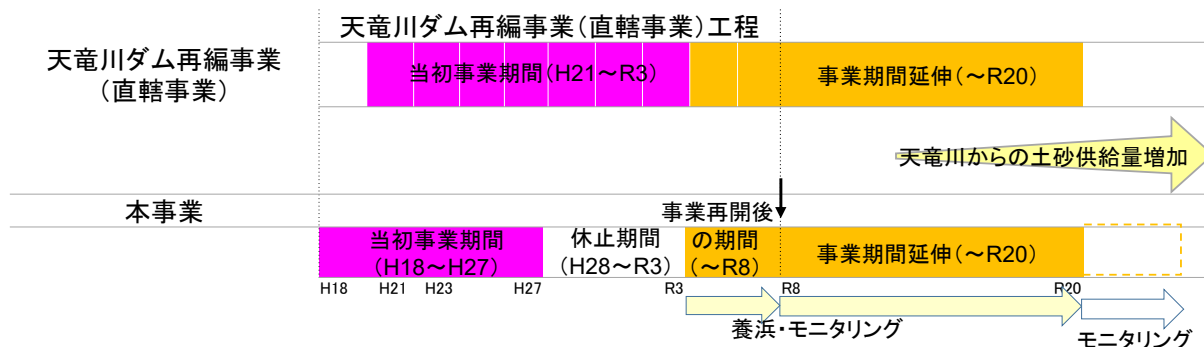
4. 事業の進捗状況（令和8年度末見込み、事業費ベース）

事業費		39%
事業量	離岸堤工	100%
	養浜工	62%



5. 前回からの変更点・理由

	前回 (R3)	今回 (R8)	主な変更理由
①計画期間	H18～R8	H18～R20 (+12年)	・直轄事業である天竜川ダム再編事業の完成が予定されている令和20年度までを計画期間に設定する。その後、砂浜の状況をモニタリングし、養浜の継続の必要性について検討する。
②全体事業費	3,699百万円	6,144百万円 (+2,445百万円)	・事業期間の延長に伴い全体事業費が増加した。 (養浜事業の運搬費等にかかるコスト増が見込まれる)



○高波の来襲状況

竜洋観測所における既往高波上位10波(1998(H10)4月～)

順位	気象要因	有義波高 (m)	周期 (s)	波高3m以上の継続時間
1位	2018(H30)年台風24号	13.3	17.0	14
2位	2014(H26)年台風18号	11.7	15.4	10
3位	2011(H23)年台風15号	11.7	15.9	33
4位	2012(H24)年台風17号	11.5	14.1	9
5位	2012(H24)年台風4号	11.1	15.8	20
6位	2009(H21)年台風18号	10.8	13.9	15
7位	2018(H30)年台風21号	10.1	14.6	24
8位	2013(H25)年台風18号	9.5	13.9	29
9位	2017(H29)年台風21号	9.4	15.0	28
10位	2013(H25)年台風26号	9.3	16.3	28

※2012 (H24) 年以前は毎正時データ、2013 (H25) 年以降は10分毎データ
【遠州灘沿岸の計画外力 (50年確率波)】：沖波波高 $H_0=9.0\text{m}$ 、周期 $T_0=17\text{s}$

6. 今後の事業の進捗の見込み

●事業推進のための主な取組

①<<秋葉ダム浚渫土砂の活用>>

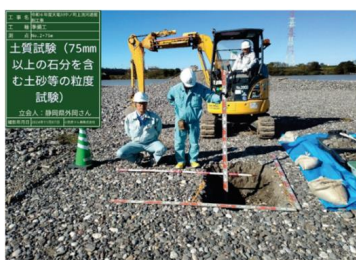
- 県・電源開発が協定締結(1万m³)
- ・電源開発は秋葉ダムの浚渫土を養浜材として供給する
- ・運搬は県と電源開発が1/2ずつ担う

②<<国との連携>>

総合土砂管理計画に基づき、国、県それぞれの目標に向けて連携して円滑に事業を進めていくため、課題共有と解決策を検討するため、土砂連携調整会議を年5回程度開催し、河床掘削工、養浜工の実施を調整。

参加機関

国：浜松河川国道事務所、天竜川ダム再編工事事務所
県：河川海岸整備課、浜松土木事務所、袋井土木事務所



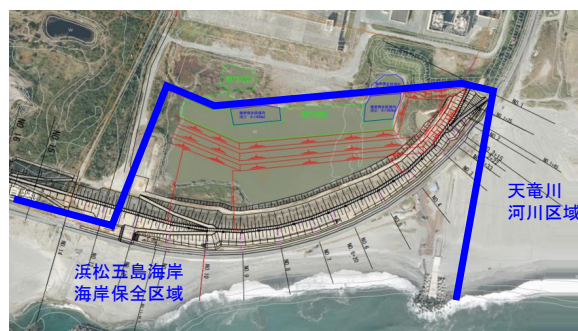
【試料採取状況】



【合同立ち合い状況】

③<<ストックヤード整備>>

安定した養浜材確保に向け、ストックヤードを整備。
天竜川の河道掘削により発生する砂礫などをストック、ふるい分けするためのヤードを確保する。



7. 対応方針（案）

- ・ 本事業は、海岸侵食に対して防護上必要な砂浜幅を確保することで、越波等による背後地への浸水被害の発生を防止し、人家や事業所などを保全することを目的としており、事業の投資効果が認められる。
- ・ 近年、地域住民や環境保護団体による環境美化活動や、マリンスポーツの利用が活発化していることから、砂浜のますますの保全が求められている。また、今後の事業進捗も見込まれる。

事業効果は発現されているため、
養浜事業を継続する

今後の課題等、同種事業への反映等

- ・ 引き続き、有識者と行政関係機関からなる「遠州灘沿岸侵食対策検討委員会」を開催し、高波の来襲に応じたモニタリングを継続的に実施し、必要に応じて養浜計画の見直しを行う。
- ・ 天竜川の河川管理者（国交省）と掘削・運搬等の連携を図り、養浜材として天竜川河道掘削土砂を活用することによりコスト削減を図っていく。
- ・ 産学官での共同研究「遠州灘プロジェクト」により数値計算精度の向上やシラス漁船測量等のモニタリング手法が開発され、粗粒材養浜等による侵食対策計画の立案が可能となったため、今後の同種事業においても得られた知見を活用していく。